

# 農林水産技術こども新聞

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1 農林水産省 農林水産技術会議事務局 <http://www.affrc.maff.go.jp/>

©朝日学生新聞社 本紙の記事、写真、レイアウトなどの無断転載、複製を禁じます

あまくていろ  
色も美しいブドウ。しかし夏の高温の影響などで、西日本を中心に色づきが悪いといった問題が起こり、農家の人たちも頭をかかえています。これらを解決する新しい品種が誕生しました。農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が開発した「グロースクローネ」です。生まれるまでに20年近くかかり、研究者たちの「農家の人作りやすく消費者においしいブドウを食べてほしい」という思いがこめられています。

7月の上旬、広島県東広島市にある農研機構の果樹研究拠点を訪れました。標高100メートルぐらいのなだらかな斜面に、ブドウ

## おいしくって色がキレイ 「藤稔」×「安芸クイーン」

ウの新品種「グロースクローネ」が実っていました。虫や病気などから実を守るために袋がかぶせられていますが、特別に見せてもらいました。大きく丸々とし「もうすぐ熟してきます」といいました。大きく丸々とし粒のブドウは「巨峰」や「ピオーネ」といった、皮が濃い紫色をした品種が中心です。しかし近年、夏の高

温などの影響で、西日本地域を中心、皮にきれいな濃い紫色がつかないことなどが問題となっています。色のつかないブドウは市場での商品価値が下がるため、農家の人たちからも「温度が高くても色づきの

1998年、粒の大きな濃い黒色をした品種「藤稔」と、赤色の品種の「安芸クイーン」をかけ合わせることからスタート。研究を進め、2001年に初めて実がなります。その後、全国の36か所の研究機関などに送り、きちんと育つか、色がつくなどを確かめる試験などを重ねてきました。生まれたのが「グロースクローネ」です。ドイツ語で「グロース」は「大きい」、「クローネ」は「王冠」を意味します。今年の秋から実際に「グロースクローネ」が食べられるのは3、4年後になります。佐藤さんは20年以上もブドウやカキの品種の研究を

平成30年7月豪雨により被災された皆様にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興に向け努力してまいります。

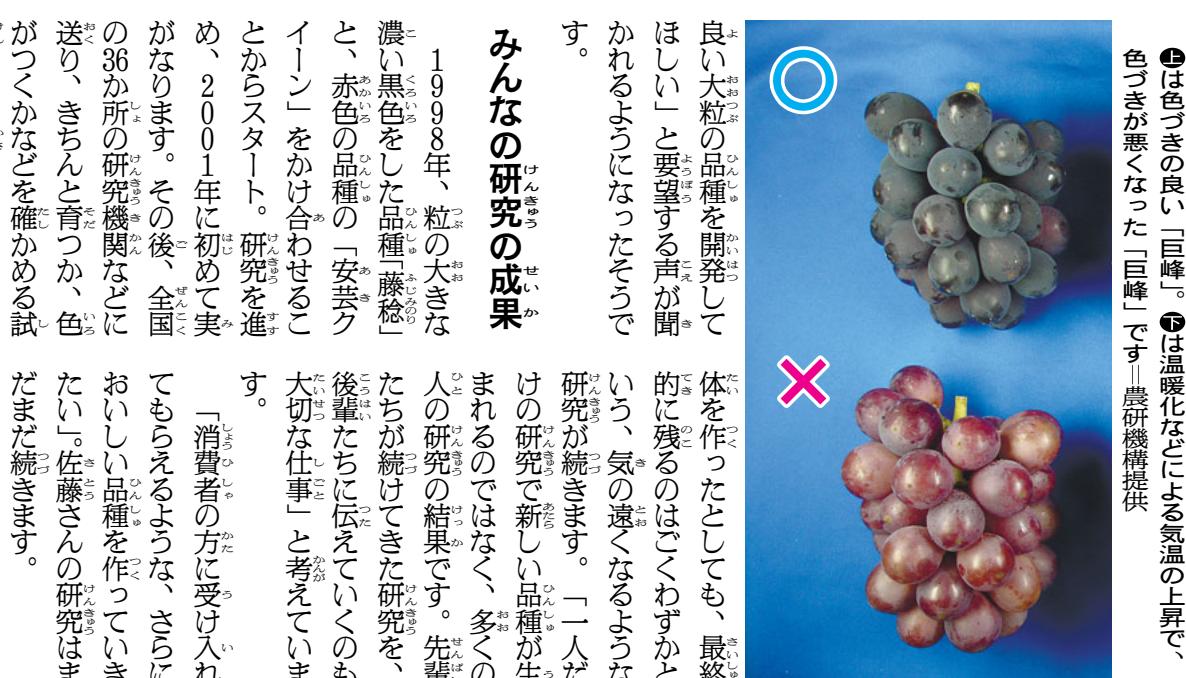
農研機構は、地方公共団体等の関係者、生産者の皆様からの技術的相談に対応するため、技術相談窓口を設置しました。ご相談のある方は以下にお問い合わせください。

<http://www.naro.affrc.go.jp/disaster/nishinihon201807/madoguchi.html>



色づいた「グロースクローネ」。濃い紫色をした粒の大きいブドウです=農研機構提供

ブドウの新品種「グロースクローネ」の育ち具合をチェックする佐藤明彦さん=広島県東広島市の農研機構



●は色づきの良い「巨峰」。●は温暖化などによる気温の上昇で、色づきが悪くなった「巨峰」です=農研機構提供